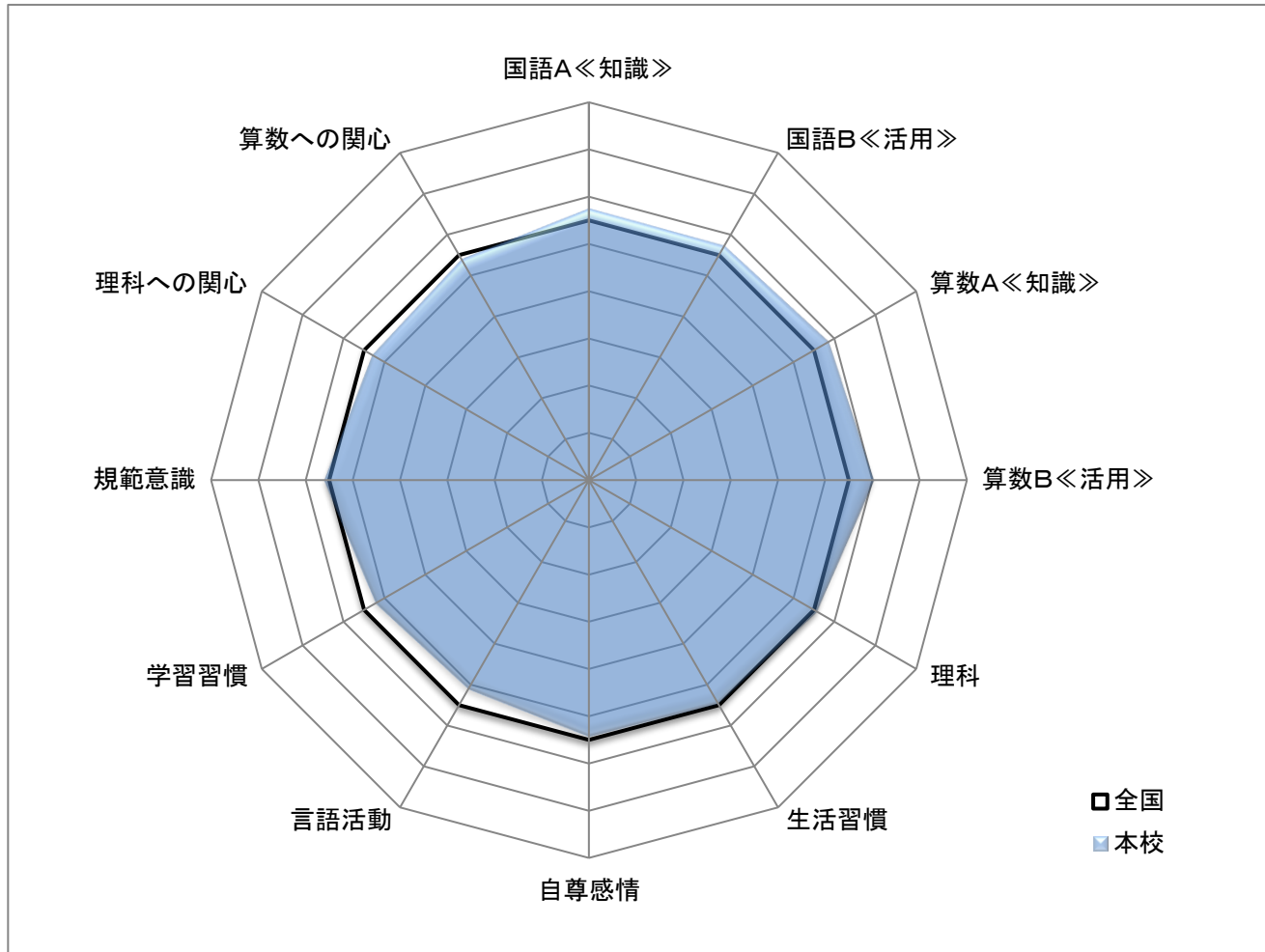


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語A<<知識>>、国語B<<活用>>、算数A<<知識>>算数B<<活用>>、理科において全国の平均値を上回っている。このことから、学習内容を理解しており、身につけた知識を活用する力があると言える。その一方で算数・理科への関心値や学習習慣・言語活動の値がやや下回っている。さらに「学習習慣」の項目を詳しく見ると、学校の宿題をする割合は高いが、自分で計画を立てて家庭学習を進める割合がやや低いことがわかった。

《授業改善のポイント》

国語・算数・理科のどの教科においても全国平均値を上回る一方で、教科への関心値や言語活動の値がやや下回っている現状があるので、授業改善については以下のポイントが挙げられる。  
 ①学習と普段の生活とを結びつけた視点で学習計画を立てる。  
 ②ペアやグループで話し合いながら課題を解決していく学習場面を増やす。

《チャートの特徴》

全体的には、どの領域においても全国平均と同程度の値となっており正多角形のグラフとなっている。その中でも国語・算数・理科は、全国平均を上回っている。一方で 学習習慣と言語活動については、やや下回っている傾向が見られる。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習キャンペーンなどの機会を生かして、自分で計画を立てて進める家庭学習の定着を目指していく。また、言語活動を高めていくことが学力向上と密接に関わっていることを家庭・地域と共有し、連携を取りながら指導していく。